

令和 6 度なりたオレンジプロジェクト 市の実施内容等について

成田伝統芸能まつり秋の陣(健康測定・認知症カフェブース出展)

9月14(土)・15日(日)に開催した「成田伝統芸能まつり秋の陣」において、健康測定・認知症カフェブースを出展し、約540人がブースに来場。

- 認知症カフェ開催(成田市認知症家族の会(オアシスの会)と共催)
- 握力や血管年齢、バジチェックなどの健康測定コーナー実施(明治安田生命保険相互会社)
- 認知症や健康に関する冊子やチラシ、書籍等を設置
- 認知症マップの展示
- オリジナルデザインのうちわを記念品として配布



認知症カフェとは

「認知症の人とその家族が安心して集える場所」として地域で開催されており、認知症の方やその家族に限らず、地域の住民なども集い、自由に交流する場となっている。また、認知症の家族が、他の家族と介護についての情報等を共有する役割も担う。

所感当ブースには2日間で約540人と多くの方が来場され、握力や血管年齢など、明治安田生命保険相互会社の協力による健康測定の実施や、認知症カフェの運営により認知症に関する相談及び市認知症家族の会との意見交流を行いました。この他にも大塚製薬㈱の協力による健康に関するチラシや認知症関連の冊子の配布、認知症マップや書籍等の展示を行うなど、健康に関する意識や認知症に対する理解促進等、協働する企業との連携により周知啓発活動を十分に実施することができました。

「麒麟模様の馬を見た」幻視イラスト原画展

9月1日～30日まで、成田市役所市民ロビーにてレビー小体型認知症当事者の三橋昭氏が見た幻視を自ら描いたイラスト、約100点の原画展を開催しました。



レビー小体型認知症とは

手足の筋肉のこわばりや震えといったパーキンソン症状や、実際に存在しないものが見える幻視や幻聴、睡眠の乱れなどの症状が起こり、調子の良い時、悪い時の波が大きい特徴がある。

所 感 市役所へ来庁された市民をはじめ、地域包括支援センター等の関係者や市議会議員、市職員等多くの方に鑑賞いただいたほか、新聞社や成田ケーブルテレビにおいて記事掲載や番組で放送されました。また、鑑賞いただいた方からイラストや作者への感想、メッセージを記載していただき、「認知症を知るきっかけになった、もっと色々調べてみたい」、「認知症や幻視についてはネガティブなイメージがあったが、可愛くユニークなイラストに印象が変わった」など、多くのポジティブな感想がありました。認知症に関する周知啓発、理解促進にかかる大変貴重な展示会となりました。

認知症サポーター養成講座

期日	企業名	参加者
9月11日(木)	一般市民向け(市主催)	37名
9月19日(木)	国際医療福祉大学	67名
9月27日(金)	JALグループ	25名

所 感 プロジェクトの一環として、市民や協働する企業等に対して、期間中に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への正しい知識や支援などを学ぶことで、サポーター拡充や一層の理解促進、啓発活動の連携等に繋がる機会となりました。

認知症 VR 体験会

認知症地域支援推進員事業により、認知症の方の感じている空間をVRで疑似体験し、認知症への理解を深めることを目的として開催。

期日	場所	講師	参加者
9月20日(金)	保健福祉館	(株)シルバーウッド VR事業部	医療・介護事業者、学生など 49名



所 感 VRによる視空間失認やレビー小体病の幻視症状を体験し、認知症当事者のインタビュー視聴や参加者同士でディスカッションを行うなど、当事者視点で認知症を考える有意義な研修を実施できました。

周知啓発活動

- 啓発用チラシ(A4)・ポスター(A2)の作成及び掲示、配布
- 市役所庁舎にて懸垂幕、啓発コーナーの設置
- 職員がオレンジ色のアイテムを着用
- その他
 - ・広報なりた(9/1号)に特集記事を掲載
 - ・報道機関へプレスリリース
 - ・市ホームページ、公式 SNS による発信
 - ・成田富里タウンビジョン
 - ・デジタルサイネージ(市役所内、イオンモール成田内通路・さくら広場 わが街 NAVI)
 - ・来庁者へプロジェクトの実施アナウンス など

所 感啓発用チラシ・ポスターを活用して、成田山新勝寺や成田空港ターミナル内、イオンモール成田、市内の公共施設など各地で周知啓発を図ったほか、市ホームページや公式 SNS、Orange(株)による特設 Web サイトなど様々な媒体による啓発、市役所庁舎での特設コーナー設置や職員がオレンジ色のアイテムを着用するなど、幅広い周知活動を実施できました。

合同啓発活動

世界アルツハイマーデー前日において、プロジェクトを協働する法人・企業等と街頭啓発活動を実施。

- ・日時:9月20日(金)17:30~18:00
- ・場所:JR 成田駅 参道口
- ・配布物:オリジナルうちわ
- ・参加者:44名

協働する企業 17 名、オアシスの会4名、市議会議員 5 名
成田市関係者:小泉市長、関根副市長、福島副市長、うなりくん、職員等18名

所 感令和4年度・5年度に引き続き JR 成田駅参道口にて、協働する企業等と街頭啓発活動を実施。オレンジ色の T シャツや手袋などを身に着け、約 500 人の方に対して啓発うちわを配布するとともに、認知症への理解を広く呼び掛けることができ、企業と一体感を持ってプロジェクトの活動を行うことができました。

俳優 山本學さんと朝田隆医師による特別講演会

認知症専門医 朝田隆医師が監修し、認知症やフレイルなどを予防する総合的なプログラムによる介護予防教室「人生カッコよくプロジェクト」において、朝田医師と患者である俳優の山本學氏による認知症への向き合い方などを講演、対談する「市制施行70周年記念 人生カッコよくプロジェクト 特別講演会」を開催。

- ・日時:10月3日(木)14:00~16:15
- ・場所:成田市文化芸術センター なごみの米屋スカイタウンホール
- ・来場者:教室参加者、一般市民など約200名

所 感朝田医師の解説や MCI である山本さんの体験などを聞いた参加者からは、認知症予防に対する取組の重要性や自分のことに置き換えて考えるきっかけとなるなど、認知症に関する知識向上とともに、市民の意識向上につながる貴重な講演、対談となりました。





令和6年9月1日～9月30日
成田市役所本庁舎「懸垂幕」

「広報なりた9月1日」

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。市では、この期間に「なりたオレンジプロジェクト」を実施し、認知症に関する啓発に取り組みます。

認知症への理解を広め支え合うまちに

「なりたオレンジプロジェクト」

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。市では、この期間に「なりたオレンジプロジェクト」を実施し、認知症に関する啓発に取り組みます。

市では、健康寿命を延ばすための施策を推進すると同時に、認知症になっても住み慣れた地域で安心して日常生活を送ることができるよう「なりたオレンジプロジェクト」の推進と、地域共生社会の実現に向けて、次のような取り組みを行っています。

世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症に関する啓発活動を行う「なりたオレンジプロジェクト」を実施します。期間中は、市内事業者や空海関連企業、成田市認知症家族の会（オアシスの会）などと協働して、認知症への理解を広く呼びかけます。

市では、市役所1階に啓発コーナーを設置するほか、職員が認知症の人を支援するための象徴的な色であるオレンジ色を身に付けて、啓発活動を行います。

また、認知症に関する講座や講演会のほか、認知症VR体験会を開催します。

さらに、9月14日（土）・15日（日）に開催する「成田伝統文化まつり秋の陣」では、健康測定や認知症に関する相談などができるブースを出展します。なりたオレンジプロジェクトの詳細は市ホームページで確認できます。

市ホームページ

そのほかの取り組み

介護予防教室「入生カッコよくプロジェクト」

認知症をはじめ、フレイル（弱）やロコモティブシンドローム（運動器障害）を予防する「認知症専門医の診察による総合的プログラム」です。エクササイズやタブレット端末を使ったゲームのほか、美術などの創作活動といった幅広い内容をいいます。

認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識と理解を広げるための講座です。対象は小学生から高齢者まで、

企業や団体向けにも開催しています。また、受講者には、認知症サポーターの証として「オレンジリング」を交付します。

「認知症の馬を見た 馬鹿眼 幻視や睡眠の乱れ、手足の震え」といった症状が出るレビイ小体型認知症当事者の「橋本さんが見た幻視を自ら描いたイラスト」の原画展を開催します。

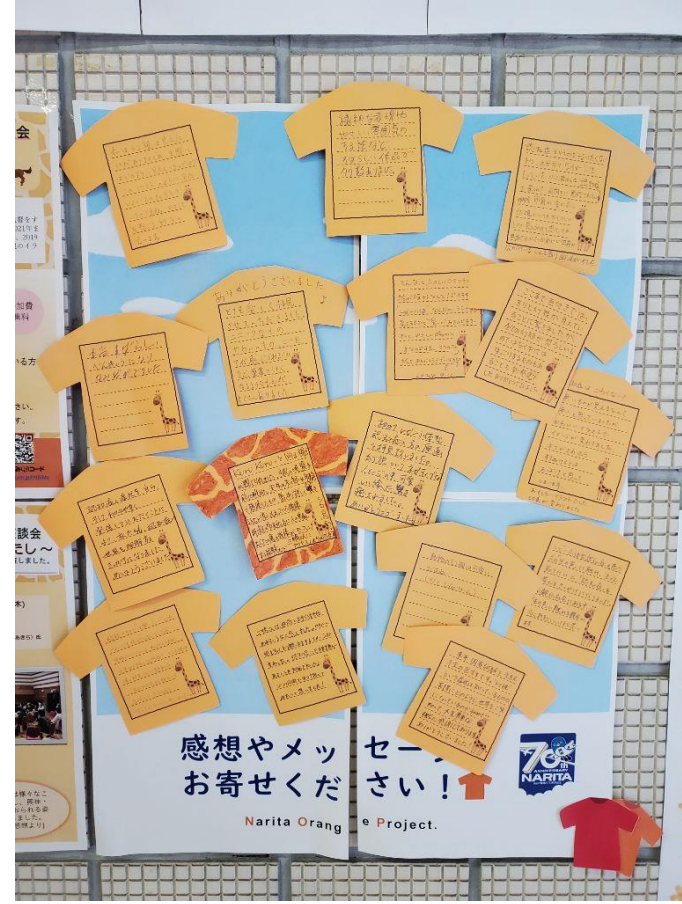
期間：9月30日まで
会場：市役所1階市民ロビー
※くわしくは介護保険課 ☎20・1555へ。

市役所1階の啓発コーナー

広報なりた 2024.9.1 8



オレンジ色のグッズを身に
着けて窓口対応をする職員



令和6年9月1日～9月30日
成田市役所 市民ロビー
「麒麟模様の馬を見た幻視イラスト原画展」
三橋昭 作